

5. 断水復旧後

5.1. 飲料用として水を備蓄するようになったか

回答者は、断水復旧後、備えをするようになったのだろうか。まず、飲料用水について質問した。「あなたは今回の震災後、飲料水用として水の備蓄をするようになりましたか」という質問の結果は次の通りである。

表 29. 飲料水として水を備蓄するようになったか

	仙台市		浦安市	
	実数	構成比	実数	構成比
備蓄するようになった	266	66.5%	221	71.3%
備蓄するようにはなっていない	61	15.3%	45	14.5%
直後は備蓄したが今はしていない	73	18.3%	44	14.2%
総計	400		310	

仙台市 66.5%、浦安市 71.3%の回答者が水を備蓄するようになったと答えている。「備蓄する」と回答した方に「どれくらい備蓄していますか。2リットルペットボトルで何本くらいですか」と質問した結果は次の通りである。

表 30. 備蓄本数

	仙台市		浦安市	
	実数	構成比	実数	構成比
5本未満	70	26.3%	29	13.1%
5本以上10本未満	81	30.5%	59	26.7%
10本以上15本未満	63	23.7%	71	32.1%
15本以上20本未満	15	5.6%	14	6.3%
20本以上	37	13.9%	48	21.7%
総計	266		221	

仙台市では「5本以上10本未満」が30.5%と第一位、浦安市では「10本以上15歳未満」が32.1%と第一位となっている。

5.2. 生活用水として水を備蓄するようになったか

回答者は、飲料水ではなく生活用水として備蓄するようにはなったのだろうか。「あなたは今回の震災後、風呂やトイレ等の生活用水として水の備蓄をするようになりましたか」という質問への結果は次の通りである。

表 31. 生活用水として水を備蓄するようになったか

	仙台市		浦安市	
	実数	構成比	実数	構成比
備蓄するようになった	154	38.5%	103	33.2%
備蓄するようにはなっていない	140	35.0%	124	40.0%
直後は備蓄したが今はしていない	106	26.5%	83	26.8%
総計	400		310	

飲料水に比べると「備蓄するようになった」のが仙台市 38.5%、浦安市 33.2%と低い水準となっている。

同じく、「備蓄するようになった」と回答した方に「どのように生活用水の備蓄をするようになりましたか。あてはまるものをすべてお選びください」と質問した結果は次の通りである。

表 32. 生活用水の備蓄方法（複数回答）

	仙台市		浦安市	
	実数	構成比	実数	構成比
風呂の水をはっておく	120	77.9%	79	76.7%
ペットボトルを備蓄しておく	94	61.0%	50	48.5%
ポリタンクに水を入れておく	52	33.8%	35	34.0%
やかんやポットなどに水を汲んでおく	24	15.6%	18	17.5%
その他	4	2.6%	2	1.9%
総計	154		103	

両市とも「風呂の水をはっておく」が 77.9%、76.7%と一位、次に「ペットボトルを備蓄しておく」が 61.0%、48.5%と二位だった。

5.3. 今回の災害の教訓

2011年3月11日に震災が起きてから、本調査の実査が行われた8ヶ月後の11月まで、日々被害の状況は変わってきた。全体として復旧に向かっているとはいえ、震災での経験からいやおうなく回答者が得ることになった教訓がある。それをうかがいたいと「今回の災害であなたが学んだ教訓を書いてください」という質問を行い、自由回答で答えていただいた。

自由回答には、まさに今後断水被災地になるかもしれない人々に伝えるべき知恵が多数寄せられた。その内容は大別すると「普段からの備えが大切」「災害が起こった後、いかにして生き延び、回復していくか」の二つに分かれる結果であった。その答えは、「ご近所づきあいの大切さ」や「お茶・カップラーメンなどはある程度買いだめしておくが良い」「一人で不安をため込まない」等々、具体的で含蓄に富んだ回答が得られた。